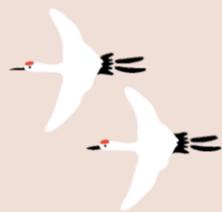


新年の
ごあいさつ



横浜旭中央総合病院
院長 山中 太郎

コロナ禍という霧の中、新たな年が、始まりました。
霧の濃さは、昨年や一昨年に比べれば、明らかに晴れつつあります。この霧は完全に無くなることはないでしょうが、少なくとも、社会活動を妨げる状態には、もはやないでしょう。

私達は、感染対策に気を遣いながら、通常の医療を展開する事を求められることとなります。

この3年間で、我々医療者に突きつけられた焦燥感…否が応でも直面しなくてはいけなかった数々の事象を目の当たりにして、多くの学びがありました。これからも起こるであろう未知の感染症の蔓延に対し、そして、社会の医療に対する要請と期待に、どんな形だとしても応えていかなくてはいけない責任感を、今も、ひしひしと感じています。



新しい事象には、エビデンス、マニュアル、ガイドラインと言った類のものは、全く役に立ちませんでした。その意味では、本当の意味での想像力、創造力、柔軟性が問われ…誤りや間違いも多数ありました。

私達は、社会の要請と期待に対して、常に謙虚に、真摯な態度で医療を展開していかなくてはなりません。

我々はついその場さえやり過ごせば良いと考えがちなのですが、この間の学びと経験を糧にして、次に備えなければいけないと心より考えています。

その決意を胸に、新しき年を過ごしたく思います。

2023年1月1日

